



体験にみる子どもの貧困

— 345 世帯の声からみえたこと

～ひとり親家庭での体験活動を支えるために～

目次

はじめに

調査概要

第1章 ひとり親と子どもの貧困	05
第2章 体験にみる子どもの貧困	07
(1) 約9割が「体験に対して諦めや不安」を感じている	
(2) 「他の家庭はできていること」に関する我慢や不安	
(3) 親の孤立にもつながっていく	
(4) 金銭的・時間的・精神的な理由で体験ができない	
(5) 「ひとりでみる」高いハードル	
(6) 「身近な人」に認められる経験が大切	
(7) 季節行事の「この日くらいは」	
第3章 ひとり親家庭での体験活動を支えるために	16
(1) 参加しやすいのは、安価・子どもだけの参加・近隣での開催等	
(2) 参加しやすいのは、週末や長期休暇	
(3) 体験活動に参加しやすくするために ～ひとり親6名に聞いた参加へのヒント～	
(4) 体験活動の機会を広げるために ～企業・NPO 調査から～	
おわりに ～子どものために大人が手を取り合う社会へ～	23
資料 調査集計データ	24

はじめに

現在、日本の子どもたちの7人に1人が相対的貧困の状態にあり、ひとり親家庭の約半数が貧困状態にあります（平成28年国民生活基礎調査）。経済的な貧困は、食事や衣服などが不足するだけでなく、文化活動や野外活動などの体験の不足、そして学力や自己肯定感の低さにつながっているといわれています。

NPO法人チャリティーサンタは、2008年から述べ3万人を超える子どもたちに、サンタクロースとの体験・思い出を届けてきました。多くの家庭を訪問する中で、クリスマスにも子どもの貧困があることに気付き、さらにそれは「体験の格差＝体験における子どもの貧困」につながっていることにも気付かされました。

そこで今回、岡山市こども福祉課との協働により、「岡山市市民協働推進ニーズ調査事業」として、ひとり親の経済的困窮家庭等を対象とした「体験」に関するアンケート調査を実施しました。

アンケート結果をみると「経済的な事情などで、子どものしたい経験を諦めさせたことがある」家庭が大半でした。他の家庭にとっては当たり前でささやかな経験を「諦めさせる」という状況は、子どもへの影響はもちろん、親にとっても得も言われぬ罪悪感を感じていることもわかりました。

【自由記述より】

やりたい事がたくさんあるのに体験すらさせてあげられないことがある。
仕事だったり自分自身の体調の面だったりで「今度ね」と断ることがある。子どもにとって「今度っていつ？」
「今度なんてないんじゃないのか」と感じさせてしまっているのではないのかと思ってしまいます。
もっともっとたくさんの経験をさせてあげたい、子どもの可能性を広げてあげたい！
気持ちはあるのですが、実際にはなかなか出来ない。
我慢は大切ですが、本人の成長の芽を潰してしまっていないのか…日々不安です。
(15歳、11歳、4歳の子どもの保護者)

こうした家庭の「体験」を支えるために何ができるか。大人たちが手をとりあうことで、こうした家庭と子どもたちを支える力になることができると、私たちは信じています。

この報告書ではニーズ調査全体の傾向をお伝えするとともに、アンケートに答えてくださったひとりひとりの想いが届くように自由記述に書いてくださった生の声をできるだけ紹介しました。

今回の調査の結果をご一読いただき、少しでも子どものためにできることを見つけていただければ幸いです。

2020年2月 NPO 法人チャリティーサンタ
代表理事 きよすけ 清輔夏輝
担当理事 河津 泉

調査概要

1. 調査目的

岡山市では「岡山市子どもの貧困対策推進方針」において「早期に、確実に、支援につなぐ」を方針の一つとして掲げているが、困難を抱える家庭が必要としている支援の内容を十分に把握できているとは言えず、その届け方も確立されていない。また「困難を連鎖させない」を方針に掲げ、その中で幼少期の自己肯定感の向上が課題とされているが、そのための支援策も確立されていない。そのため、本調査では幼少期の子どもを持つ家庭が関心を持ちやすい「クリスマス」という支援のスキームを持つ当法人と岡山市こども福祉課が協働し、該当家庭のニーズを収集し、今後の支援策の検討素材とする。

2. 家庭への調査

2-1) アンケート調査

- (1) 調査対象：岡山市内児童扶養手当受給家庭のうち、満3歳～9歳の児童を持つ家庭 1,997 家庭
- (2) 実施期間：2019年11月1日～11月15日
- (3) 調査方法：児童扶養手当受給家庭にアンケートを送付。回答者には「サンタクロース訪問」もしくは「サンタからの手紙」と絵本のプレゼントが届く形とした。なお、アンケートのみの回答も可能としている。
- (4) 回答者（回答率）：345 家庭（17%）

①回答者の子どもの人数

1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人
168 家庭	120 家庭	45 家庭	9 家庭	1 家庭	1 家庭	0 家庭	1 家庭

②回答者の子どもの年齢

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳
人数	6	7	24	43	62	62	66	65
割合	1.00%	1.17%	4.01%	7.19%	10.37%	10.37%	11.04%	10.87%

8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳～
88	46	32	23	12	10	16	10	26
14.72%	7.69%	5.35%	3.85%	2.01%	1.67%	2.68%	1.67%	4.35%

※満3～9歳児を持つ家庭を抽出したため、調査時点ではまだ3歳を迎えていない場合もある。また、該当以外の年齢のきょうだいがあり子どもの年齢幅はひろがっている。

2-2) ヒアリング調査

- (1) 調査対象：アンケート調査の回答家庭のうち「個別ヒアリングを希望する」と回答した家庭
- (2) 実施日：2019年12月1日、2020年1月19日（日）
- (3) 調査方法：岡山市男女共同参画社会推進センター（さんかく岡山）において、約1時間の個別ヒアリングを実施
- (4) 調査人数：6名

3. 企業に対するアンケート調査

- (1) 調査対象：岡山県内の子育てに関心のある企業（主に「おかやま子育て応援宣言企業」などに登録している子育てに関心のある企業）や、家庭のニーズから考えられる業種から選定
- (2) 実施期間：2019年11月15日～12月31日
- (3) 調査方法：郵送でアンケートを送付。FAX、E-mail、フォームなどで受付
- (4) 回答者（回答率）15件／100社（15%）

4. NPO に対するアンケート調査

- (1) 調査対象：岡山県内の子育てに関心のある団体（主に岡山市の運営する「おかやま NPO・ボランティアサイトつながる協働ひろば」に登録しており、活動分野を「子ども」としている団体等や、家庭向けのアンケート調査を基とし、家庭のニーズが考えられる活動をする団体から選定）
- (2) 実施期間：2020年2月17日～2月24日
- (3) 調査方法：メールでアンケートを送付
- (4) 回答者（回答率）：11 団体／100 団体（11%）



第1章 ひとり親と子どもの貧困

厚生労働省の平成28年国民生活基礎調査によると、日本では7人に1人（13.9%）の子どもが貧困状態にあり、ひとり親家庭では50.8%、約半数と貧困状態にある割合は高くなります。

この「貧困」は「相対的貧困」のことを指しますが、「相対的貧困」とは、その国の等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分に満たない世帯のことを指し、子どもの貧困とは相対的貧困にある18歳未満の子どもの存在及び生活状況のことを指します。

こういった子どもたちは、毎日の衣食住に事欠く「絶対的貧困」とは異なりますが、経済的困窮を背景に教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立し、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にあります。

貧困状態に陥りやすい「ひとり親家庭」。その多くは「離婚」を「選択」することではじまっています。個別ヒアリング調査ではその「選択」のタイミングから現在に至るまでの状況もお聞きしました。

【個別ヒアリングより】

- 離婚前は本当にしんどく、相談できる人もおらず抱え込み、当時働いていなかったため、離婚をしたとしても将来の不安で押しつぶされそうでした。仕事は縁で就き、保育所にも入ることができ、現在は児童扶養手当があるのでなんとかこなしていますが、将来のことを考えるとしんどさがあります。上の子が小学校入学のタイミングで職場を変えたいと思うのですが、今のところ融通がきくのでそのままになりそうだな、と思っています。（6歳、4歳の子どもの保護者）
- 離婚後の就職先では、保育園の送迎で残業ができないこともあり、ある時からパワハラのような言葉を受ける期間がありました。また飲み会の席でセクハラを受けました。シングルマザーだから見下されてるような、辛い気持ちになって退職しました。現在は前職より、人間関係もよく、収入が増えました。1人の子育ても楽しんでいます。ただ、まだ子どもも小さく、融通のきく非正規を選択しているので、子どもとの時間を大切に考えながら、仕事についてもゆっくり考えていきたいと思っています。（3歳の子どもの保護者）
- 最初の妊娠は15歳のとき。高校に進学せず、そして結婚しないで出産。未婚なので、養育費はもらっていません。初産後、最初の一年は自分の母と一緒に暮らしていましたが、その後別々で住んでいます。それでも、大変だと思わずに今まで過ごしています。もともと自分の実家が自営業をしていて、子どもの時からその手伝いをしてきたので、働くことにしんどさを感じることはなく、現在は手に職をもつ形で、美容関係の仕事をしています。（25歳、23歳、8歳の子どもの保護者）
- 元夫の言葉の暴力で離婚。子どもがいる前でもあり、言葉の暴力を受けながら生活を続けるのはつらいと感じ、離婚しました。縁を切る形で離婚したので、養育費はもらわず、養育費はもらえるならもらいたいの、もらうためにも多大な労力が必要となるため、期待していません。現在は正社員で働き、なんとか貯金をしながら生活をしています。（5歳の子どもの保護者）
- 両親が仲良くない状態で子どもが育つことは良くないと思い、離婚。養育費に関しては、離婚するときに公正証書を作って、払ってもらうようお願いしました。最初2、3か月は払ってくれていましたが、すぐに払

われなくなりました。職場にも行きましたが、払ってもらえませんでした。未払い期間が1年になったので、裁判所へ行き、給料の差し押さえをしてもらいました。今はフルタイムで働いており、やりくりができています。状態です。(5歳の子どもの保護者)

1人で育てることを「選択」せざるを得なかった経緯や、離婚前の孤独感、1人で懸命にがんばっている姿、祖父母などに支えられてきたことなど、様々なひとり親の姿を聞かせていただきました。そこには、個人の「責任」では片づけられない現実がありました。

今回のニーズ調査では、児童扶養手当を受給するひとり親家庭に対して、子どもたちの「体験」について調査を行いました。アンケートでは回答者の負担感の軽減のため、選択式を多く設けました。自由記述の設問においても多くの方が家庭の状況を真摯に答えてくださいました。

ひとり親家庭の現状や背景を理解していただくため、個人が特定されないよう修正するのみで、できるだけ原文どおり家庭の声をご紹介しますこととしました。

【自由記述より】

- 一般的な家庭も、うちと同じくらいか、より厳しい家庭も知っていますが、一般的な家庭の場合、旅行や外食を楽しんでいて、うちではとても出来ないと格差を感じます。車も所有するだけでお金がかかるので持っていない。テレビもありません。付き添いの時間もお金も無く習いごともさせられません。保育園で、強制での習いごとと本の購入があり、低所得でせつかく保育料無料になっても厳しい状態です。任意の習いごともさせられないのはうちだけです。泣かれたこともあります。旅行や自家用車なんて本当は無くても全然いいですが、これだけは本当に辛い。辛いです。こういうの、知って欲しいです。(5歳の子どもの保護者)
- 時間もお金もなく、家の中の片付けもちゃんとする時間がなく、夕飯にお弁当を買ってくる日もあったり…。今までしていた習いごと減らしてしまっ…。子どもに苦勞させたくないのに、色々苦勞させて、我慢させて…。参観も行けない…。お金があれば、お休みを作って、子どもと過ごせる時間ももう少し作れるかと思うのですが…。(17歳、15歳、9歳の子どもの保護者)
- 私の場合は保育園が決まってから家を出る選択ができなく…保育園がなかなか決まらない事などがとても大変でした。無認可保育園や一時保育など利用しながら、精神的にも参っている中、生きる気力を人生で初めて諦めようかな?と思うほどでしたね。(親にも言いませんが。)やはり、本当に困っている人は声に出す気力すら失っていると思います。私のように苦しんでいる人は沢山いると思います。少しのサインにでも気づいてあげられ、助けてあげられる社会になればいいですね。(4歳、2歳の子どもの保護者)
- ひとり親になることは自分自身の決断で後悔はしていませんが、ひとり親とひとりっ子のマンツーマン育児でしんどいと思うことはあります。兄弟がいたらいたで金銭的にも体力的にも大変だと思います。が、1:1だと全てがお互いにかかってくるので私自身も力が入り過ぎたり、娘も構ってくれる相手が私だけになり寂しい思いをさせるように思います。幸いにも近くに祖父母宅(実家)があるため私にとっても娘にとっても逃げ場があるので体力的・精神的にしんどくなったら娘を実家に泊らせるなどして距離を置くことは出来ます。旅行は娘のためにも人並みにと思い、年に1度はどこかしら泊まりで連れて行っていますが2人旅は何かあったらどうしようと思自身不安に思うことがあり体調を崩しがちになっています。(9歳の子どもの保護者)
- 普段から頑張っている子どもたちを喜ばせてあげたい。喜んで顔を見たい。何かあるたびに、お金のことを気にせざるをえない。仕事も家事も子育てもあり、休めない。(10歳、8歳の子どもの保護者)

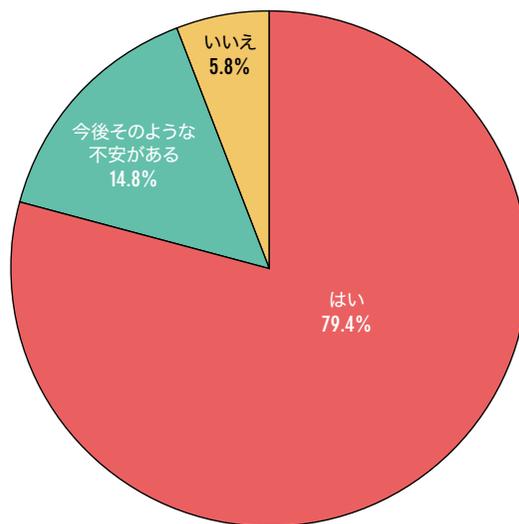


第 2 章 体験にみる子どもの貧困

(1) 約 9 割が「体験に対して諦めや不安」を感じている

「子どものしたい（してほしいだろう）ことができなかった経験がありますか」という問いに対して、「はい」が 274 件（79.4%）、「今後そのような不安がある」が 51 件（14.8%）であり、全体の 9 割が諦めの経験や今後への不安を感じていました。

子どもの「したい（してほしいだろう）」ことが、
できなかったことがありますか？ 単一選択／必須



【自由記述より】

- 遠出となると交通費や遊園地代金、外食費が高いため、いつも休みの日は近場の公園で遊んでいます。娘を色々なところに連れて行ってあげたいのですが今は厳しいです。保育園でもいつも連休明けに”どこか行ってきたの？”と先生が娘に質問します。娘は答えません。（3歳の子どもの保護者）

アンケートの中に上記の記述がありました。連休のあと、先生は何気なく尋ねたのでしょうか、「どこか行ってきたの？」と。「ユニバ」「ディズニー」「キャンプ」そんな声が子どもたちからもかえったのではないかと想像します。長い休みに「どこか行こう！」は、多くの家庭で当たり前のことなのかもしれません。先生に限らず、お友達同士の日常会話の中でもありそうな会話です。そして「お友達はいいな…自分は…」と口をつぐみ、我慢を重ねる子どもたちがいるのではないのでしょうか。

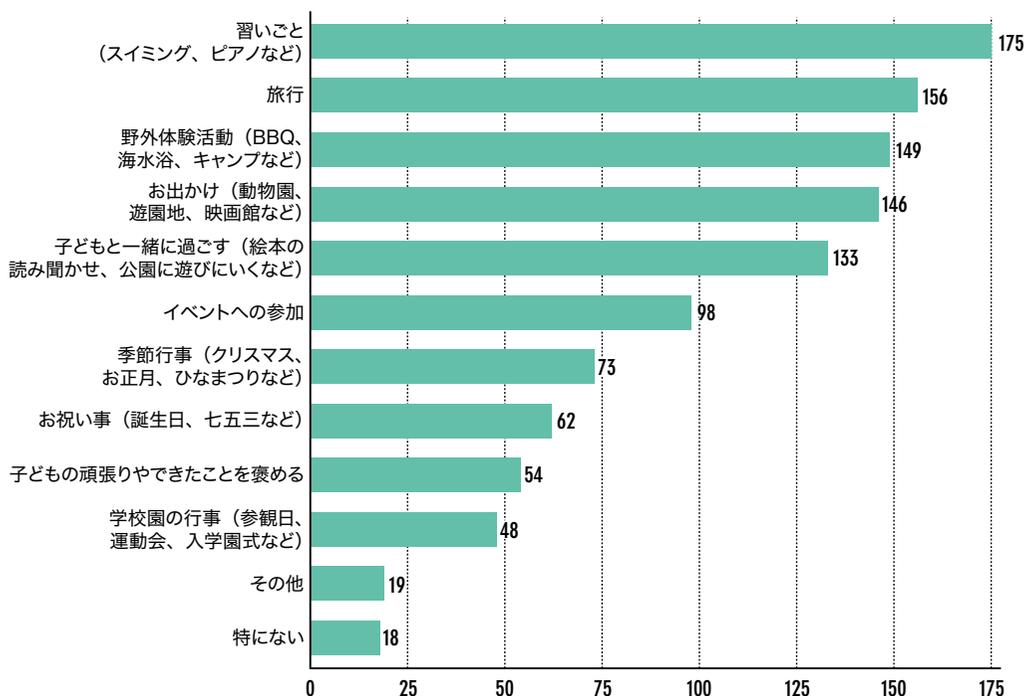
子どもに対して“してあげたい気持ち”があるにも関わらず、彼らの“したいことを諦めさせてしまった”。まわりの家庭にとってはささやかな体験であっても、それさえ諦めさせざるを得ないという経験を重ねることで、子どもの体験の不足だけでなく、親子双方にとって、自己肯定感が育まれにくい環境となってしまうのではないかと想像します。

(2) 「他の家庭はできていること」に関する我慢や不安

「子どものしたい（してほしいだろう）ことができなかつた経験がありますか」という問いに対して、「はい」または「今後そのような不安がある」と答えた325家庭に対して、どのような体験についてそう思うのかをお尋ねした結果が次のグラフです。

「諦めた」または「今後不安」な体験活動は、「習いごと」（175件／50.7%）と「旅行」が（156件／45.2%）が多く、ついで「野外体験活動」（149件／全体の43.2%）「お出かけ」（146件／42.3%）となっています。

（「子どものしたい（してほしいだろう）ことができなかつた経験がありますか」という問いに対して「はい」「今後そのような不安がある」方の内容は以下のどれにあてはまりますか。複数選択可）



自由記述では、ほとんどの項目の中で、「友達がしているのを羨ましがって」「両親そろっている家庭と比較してしまい」といった他者との比較がみられました。

ここでは自由記述に書かれた家庭の声を中心にご紹介します。

【自由記述より】

●習い事の項

習いごと、周りの友達は色々しているので、自分も習いたいと言ってきましたが、時間的にも金銭的にも余裕がなく、仕事があるから送り迎えも出来ないと言えました。（7歳、5歳の子どもの保護者）

●旅行の項

保育園のお友達などが旅行などで県外に行ったり、有名なスポットに遊びに行った話を聞いてきて、家で自分もそこに行きたいと言われますが、休みもなかなか取れず、金銭的にも余裕がないため、いつもごめんね、と言って連れて行ってあげることができません。(4歳の子どもの保護者)

●野外活動の項

夏休みにキャンプを経験させてあげたいのですが、我が家だけ母子家庭なのでお友達家族と一緒に行って息子が自分だけパパがいないことに傷ついたりしないか、また、他の家族に気を使わせてしまうのではないかと思い、お誘いいただいたのですが断りました。(7歳の子どもの保護者)

●おでかけの項

友だちと遊ぶことは、かなり制限しているように思う。あとは、お出かけや旅行など金銭的なものも私1人では厳しいので、我慢してもらっている。(14歳、8歳の子どもの保護者)

学校からもらって来るキャンプ、スキーなどの体験は有料だし、映画だって割引だけ。子どもにこれ行きたいと言われた時はいつもママのおサイフこれ一枚だから行けんのよと千円札を見せていました。映画に行きたかった小学一年生の息子が“1000円”と書いた紙を自分の財布の中から5枚出して来てこれで映画行けるよと満面の笑み。一生懸命ハサミで切ったのが分かるちよびりくねくね。涙うるうるでした。息子が見たかった映画ではなかったけど無料招待の映画を市民会館で見ました。(17歳、15歳、7歳の子どもの保護者)

●子どもと一緒に過ごすの項

いつも仕事で子どもとの時間も少なく、出かけることもなかなか無いし、生活に余裕がないから子どもの友達と比べると、欲しいものも買えなかったり、どこかに連れて行ったりとかもなかなか出来ない。(10歳、5歳の子どもの保護者)

●イベントへの参加の項

2人で出掛けると、よその子が“パパ〜”と駆け寄っていく姿を子どもが見て、パパを知らないうちの子は「??」をたくさん浮かべてじーっと見るので、私の方が負い目を感じて家族連れの多い所へ出掛けるのが億劫になります。今ひとり親が多い多いと言われてますがそれでもまだひとり親、ましてやうちは未婚のひとり親なので肩身が狭く感じます。ひとり親のみが参加出来るようなイベントなどがあれば家族連れ等気にせず出掛けられるかなーと思っています。(3歳の子どもの保護者)

●季節行事の項

つい最近のハロウィンで、ハロウィンには一切触れずにいつも通り普通の夕飯を出した時”僕もハロウィンパーティーやりたかったな…”と言われました。ハロウィンといえば仮装やカボチャで何か施した特別な料理、ピニャータ…そんなイベント予算を家計から出す余裕がないため予定すらしていなかったので申し訳なく思いました。(7歳の子どもの保護者)

●お祝い事の項

お誕生日やXmasにプレゼントを渡す余裕が無いことがあって、個人で差が出てしまう。子どもと遊ぶことがなにより好きで、子ども達は「ママ大好き!ママ遊ぼう!」というのに、子どもとの時間が圧倒的に少なく、寂しい思いをさせている。実際に寂しいな…と言ったり、お迎えの時に凄く喜ぶので、子どもの事を守る為の離婚であったが、その度に申し訳なくなる。(16歳、10歳、8歳、6歳の子どもの保護者)

●学校園の行事の項

子どもが両親と両手を繋いで歩いている。時々子どもはジャンプをしたり楽しそう。こういった風景は頻繁です。運動会も、参観日も両親で来る人が多く寂しそうです。(3歳の子どもの保護者)

(3) 親の孤立にもつながっていく

【自由記述より】

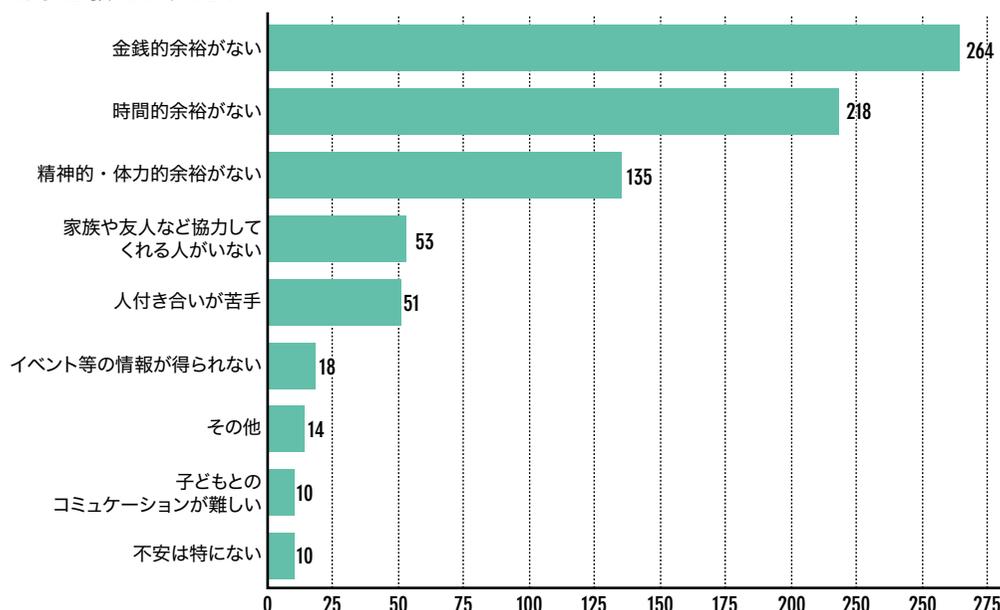
- 子どもたちが遊んでいるなか、保護者と一緒にいるのが苦痛で早く連れて帰ることが何度かありました。家庭の事を話すほど親しくもなく、旅行に行った話なども少ないので会話が続かない。楽しく遊んでいるのに申し訳ない気持ちになる。(8歳の子どもの保護者)
- ママ友もおらず、近所によく遊ぶお友達がいません。同じ学年の子と知り合ったり仲良くなったりできるきっかけづくりの場が欲しい。できれば、セレブな方(毎週、外のランチやお茶して遊んだりしている方たち)ではなく、お金が無いなかでも遊べるような関係(同じような母子家庭など)がいいなと思うのですが、難しいですよ…。土日に開催の無料のお祭りイベントなどには参加させて頂いているのですが、そのような場所では友達は作りづらく、仕事なので平日だけしている親子クラブなんかも入れません。それが今の悩みです。(3歳の子どもの保護者)
- いつも1人で精神的にも孤立していて、でも誰かと個別に仲良くするのは疲れる。出かけるのも1から10まで子どもの事をしないとイケないので精神的に疲れる。(8歳の子どもの保護者)

自由記述では、経済的な事情から対人関係に一步引いてしまうという声が多く見受けられました。子どもに、周りのお友達と同じように体験をさせてあげられない親たちが、親同士の関係づくりでも困難さを感じています。しんどさや苦しさはなかなか外に出しづらく、その結果、家庭の孤立にもつながり、周りの支えが得られにくい状況になり、貧困から抜け出しにくい状況に繋がっていくことも考えられます。

(4) 金銭的・時間的・精神的な理由で体験ができない。

「子どもがしたいと思っている経験ができなかった（もしくは今後に不安を感じている）理由があれば教えてください」という問いに対する回答は、「金銭的余裕がない」(264件／76.5%)が最も多く、次いで「時間的余裕がない」(218件／63.2%)、「精神的・体力的余裕がない」(135件／39.1%)でした。

子どもがしたいと思っている経験ができなかった（もしくは今後に不安を感じている）理由があれば教えてください 複数選択可



【自由記述より】

- 長女が年長になり周りは習いごとの話やお出掛けした話をよくするそうで、すごく羨ましがっています。ですが金銭的に子どもがやりたいと思っている事をなかなかさせてあげられません。親の愛情だけではどうする事もできない事があるのだと痛感しました。(6歳、4歳の子どもの保護者)
- 子どもがやりたかったことが、金銭的に余裕がなくできなかった。私の仕事の都合で送迎をしてあげられなく、チャレンジさせてあげられなかった。(7歳、6歳の子どもの保護者)
- 習いごとなども始めていきたいのですが送り迎えの時間だったり、金銭的な余裕もないため将来の選択肢を増やしてあげたいなあ～と思いながら出来ずにいます。(4歳の子どもの保護者)

子どもにしたいことをさせてあげられない理由として「金銭的理由」「時間的理由」「精神的・体力的理由」が多く選択されました。自由記述をみると、そうした理由であきらめさせているのは「自分のせい」と責任を感じている様子が伺えます。

(5) 「ひとりでみる」高いハードル

前項の設問「子どもがしたいと思っている経験ができなかった（もしくは今後に不安を感じている）理由があれば教えてください」に対して、「家族や友人など協力してくれる人がいない」を選択していた家庭は15.4%でした。選択していなかった回答者の自由記述にも「自分1人ではできない」という声が多く書かれていました。

大人1人で子どもをみることの大変さ、異年齢のきょうだいがいる場合の体験活動の対象年齢の問題など、大人が複数いればさほど悩まなかっただろうことに直面し、踏みとどまっている親の様子がみてとれました。

【自由記述より】

●子どもを連れていくのがしんどい

動物園やアミューズメントパークに連れて行ってあげたいが、まだ下の子が2歳のイヤイヤ期真っ盛りで、手も繋がせてくれない状態なので、公共交通機関を使うことが難しく、車での長距離移動も不安で、二人の面倒を見ながら2人分の荷物を持って移動するのが困難。(4歳、2歳の子どもの保護者)

ディズニーランドやUSJ等に連れて行ってやりたいとは思いますが、金銭的にも体力的にも難しく、子どもが言う事を聞かず私1人で対応出来ないシライラする場面が想定されるので、私自身もそこまで行きたいと思えない。(8歳、6歳の子どもの保護者)

平日は朝から夕方まで仕事をしているので、週末はいつも家の片付けなど家の事ばかりになりがちで、子どもが公園行きたい!出掛けたい!と言っても連れていくのが難しいことが多々あります。出先で私1人で2人の子を見るのが大変だったりするので、出掛ける場所も決まったところになりがちです。(8歳、6歳の子どもの保護者)

●手や目が足りない

男の子3人を育てています。2人目まであまり感じませんでしたが、3人目からひとり親になり、物理的に、大人の手が足りないと思う事が多々増えました!男の子は、特に活発で目が離せないので常に目をみはっていないといけません。(9歳、5歳、1歳の子どもの保護者)

ずっと子どもたちは夏休みに海に行きたいと言っていましたが、私1人では万が一の時に対応できず、3人を安全に遊ばせられないと思い、いつも市民プールで我慢しています。(12歳、10歳、8歳の子どもの保護者)

●野外活動などは母子では難しい

キャンプは子どもと2人だけでは行きにくい。(9歳の子どもの保護者)

男の子なので公園や野外での体験を思いっきりさせてあげたいが、体力的・時間的余裕がなく、理想とは程遠い状況。野外活動などは母子2人では楽しめきれないのも現実です。日常生活を満たしてあげる事が優先になってしまい、イレギュラーな季節のイベントなどは疎かになりがち。この満たされない事の積み重ねや経験不足が、心の発達や学力に影響するのではと心配です。(4歳の子どもの保護者)

●きょうだい一緒に参加ができない

遊戯施設で年齢や身長制限があると上の子だけは可能だが、下の子は乗れない上に、親同伴でないと乗れない・入れないとすると、上の子に諦めて貰うしかなかった。またそのような状況で、子どもだけでも可能であっても、やはり子どもは親と一緒に体験したがるけれど、下の子のために一緒に行ってやる事が出来ず、結果として諦めてしまったことも多かった。(13歳、9歳の子どもの保護者)

ひとり親で、子どもの年齢差により、何歳以上利用可能で、何歳までは保護者同伴などの場合、乗れない子を1人にも出来ず、付き添えないため、利用出来ないと言うような状況が、よくある。しょうがないけど、がっかりはする。(14歳、12歳、8歳、6歳の子どもの保護者)

●一緒に体験できない

夏にプールに行ったときに荷物を置いたままに出来ず、結局ほとんど荷物番をすることになり、娘だけでプールに行き『もっとお母さんと遊びたかった』と言われツラかった。同じくイベント等の場所取りや並んでる時は仕方ないことだがその場を離れる際はまた一から並び直しや場所を取り直しになる。(9歳の子どもの保護者)

●不安が先回りする

休日にイベントに行きたいと言っても、そこで風邪をもらってきたら、疲れがたまって風邪をひいたらと考えて行くのをやめる事は多々あります。休日に普段できていない家事を片付けないといけないので休日=遊びに行く、はなかなか厳しいです。(8歳の子どもの保護者)

【ヒアリングより】

●自分1人じゃ難しいことに参加がしづらい

体を動かすことや、工場見学など自分たちだけ(1家族だけ)では難しいことができるようになると嬉しいなと感じています。季節行事などもちゃんと子どもと一緒にしたいと思いつつ、自身の経験不足や周りの協力ができないことできないということがありました。(12歳、8歳の子どもの保護者)

●出先で子どもから離れられない

2人で色々出かけることもあります。出先で子どもを1人待たせることができない(アトラクションの並び時間に子どもと一緒に並ばせないといけない等)などが困ります。(5歳の子どもの保護者)

海やプールの安全管理、つながなければいけない子どもの手とたくさんの荷物、年齢や個性の違う子どもたちと1人で向き合う大変さ、自由記述の多くは子どもとの「お出かけ」での大変な経験や、想像できる難しさや不安にあふれていました。

1人で子どもを連れて出かけたときに起こるだろう様々な「対応」や「ハプニング」を想像したり、あるいは思い出したりすると、出かけることそのもののハードルがぐんと高くなるのでしょう。ひとり親家庭の親たちにとって、子どもたちが遊ぶ姿を見守る、子どもと一緒に体験することは、想像以上に高いハードルなのだ気付かされました。

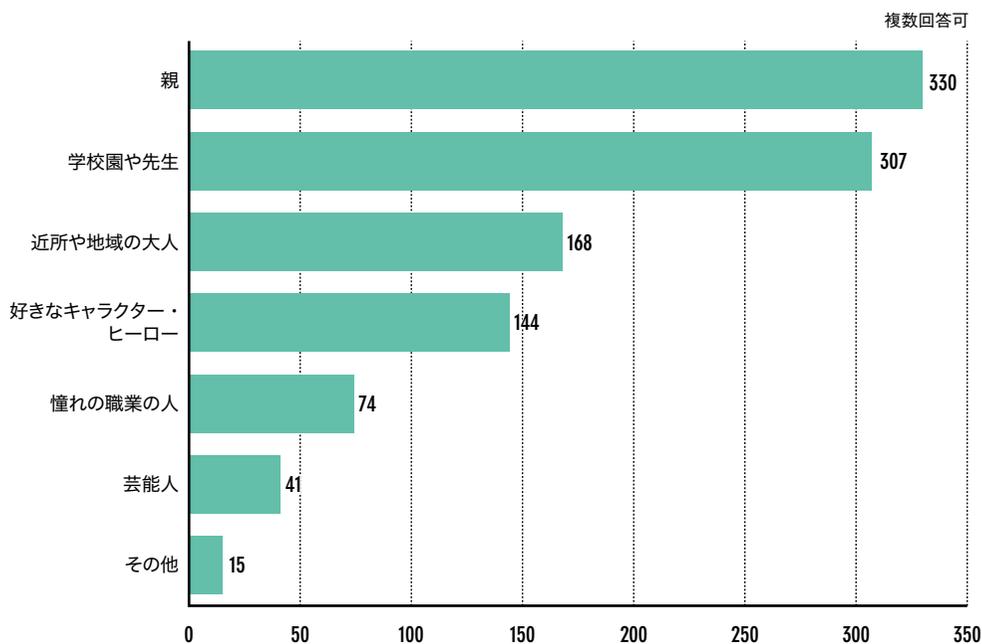
そして、子どもたちの「やりたいこと」「挑戦したいこと」は、きっと子どもの成長とともにどんどん広がっていくことが想像され、このハードルはもしかしたらまだ高くなっていくのかもしれない。

一方で、「子どもを一緒にみることをサポートする人」、「荷物や安全管理から解放される参加の仕方」、「異年齢の子どもでも一緒に過ごせる工夫」といった手助けや工夫があれば、ひとり親家庭の親子の参加の可能性は広がるのではと考えることもできました。

(6) 「身近な人」に認められる経験が大切

「子どもはどのような人に認められたり、褒められたりすると嬉しいと思いますか」という問いに対して一番多かった回答は「親」(330件／95.7%)で、次は「学校園の先生」(307件／89.0%)でした。また「近所や地域の大人」(168件／48.7%)や「好きなキャラクター・ヒーロー」(144件／41.7%)も半数近くの人を選択していました。

子どもはどのような人に認められたり、褒められたりする経験があると嬉しいと思いますか。



「親」や「学校園の先生」、「近所や地域の大人」など子どもが知っている大人から褒められること、愛情を注がれることが必要だと感じているようです。

家庭や地域の「体験活動」の中で、まわりの大人から、褒められたり、きちんと向き合ってもらえるような体験を積み重ねることは重要だと考えられます。

(7) 季節行事の「この日くらいは」

今回のアンケート調査では、回答してくださった方には、抽選でクリスマスに「サンタクロースが訪問してくれる」プレゼントや、希望する回答者全員に「サンタからの手紙」と絵本のプレゼントが届くこととしました。そうしたプレゼントもあってか、回答者の回答動機の詳細欄に、「家庭内での思い出や経験が不足しており、クリスマスくらいはなんとか子どもたちの喜ぶことをしてあげたい」というような記述がたくさんありました。「子どもが頑張ってる」「辛い想いをさせている」「家庭での思い出や体験が足りていない」という理由や背景とともに、「クリスマスくらいは喜ぶことをしてあげたい」ということを書かれている記述は、92件見受けられました。

「この日くらい」という想いは普段の我慢や不安の裏返しなのでしょうか。「特別な家族の思い出」をつくりたいという願いがとても強く伝わってきました。

【自由記述より】

- 生活が苦しくて、どこにも連れて行ってあげられない。サンタさんの時期も、サンタさん苦しいらしいよって子どもたちに我慢させて情けなくなる。(20歳、16歳、15歳、12歳、8歳、7歳の子ども保護者)
- ディズニーランドやユニバーサルへ連れて行って欲しいと言われる。仕事で親子活動の参観日に行けなかった。去年のクリスマスプレゼントはトランプ。今年は何の子の誕生日プレゼントもケーキもプレゼントもなし。普段、私は仕事で帰りも遅く、土日祝日も関係なく働いています。正直、子ども達と話をする時間もありません。もう11歳の長女を筆頭に、全員がサンタクロースは居ると信じています。そんな子ども達とサンタさんは居るんだね!と、笑顔で話したい。(11歳、9歳、7歳、6歳の子ども保護者)
- 毎日寂しいのに我慢をさせてしまっています。でも唯一クリスマスとお正月は一緒に過ごせる日。だからクリスマスは子ども2人も私も本当に楽しみの日で今からどんなパーティーをしようか話をするときに手紙がきました。本当は訪問が良かったけど駅から家が遠いのでお手紙で子ども2人をサプライズさせてあげたいなと思いました。(6歳、4歳の子ども保護者)
- ひとり親なので、イベント等いつもなかなかしてあげられないし、クリスマスも仕事でどこか連れて行ってあげる事も出来ないのサンタさんが家に来てくれたら素敵な思い出になるんじゃないかと思いました。(7歳、6歳の子ども保護者)
- 土日仕事ばかりで、楽しい思い出をそんなにたくさん作ってあげられていないので、クリスマスは心に残る思い出を作ってあげたいと思いました。(8歳の子ども保護者)
- 季節毎のイベントは本来は楽しいものだと思いますが、2人でやると淋しさが際立つため、また経済的な余裕もないため、スルーしたり、厳かに過ごしてきました。なので本当に嬉しく、有り難く思います。(7歳の子ども保護者)
- 母子家庭になり、頑張ってはいますが、少なからず寂しい思いをさせている子ども達にあたたかい夢を届けて頂き、子ども達の自慢の宝物のひとつにしてあげたいと思った。(6歳、4歳の子ども保護者)
- 自分では、出来ないことが沢山あって。喜んでもらいたい事だって、自分1人では、出来ない事がいっぱい。娘が産まれて、クリスマスの時は何もしてあげられてなかったし、サンタが来ないってクリスマスの時は泣いていました。もし、夢が叶うなら、娘にサンタクロースが来てくれると、喜んでくれるのではないかと思います、応募しました。娘の喜んでる顔がみたいです。(4歳の子ども保護者)

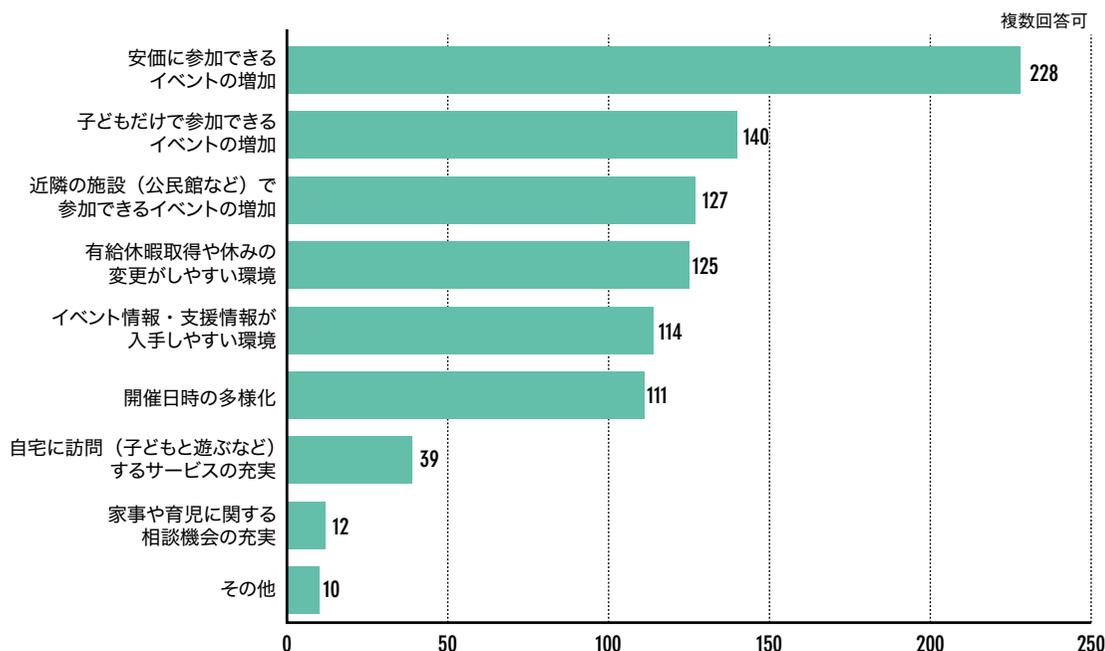


第3章 ひとり親家庭での体験活動を支えるために

(1) 参加しやすいのは、安価・子どもだけの参加・近隣での開催等

「どのようなこと（支援など）があれば、子どもはより多くのことが体験できると思いますか」という問いに対して「安価に参加できるイベントの増加」が228件(66%)と最も多く、次いで「子どもだけで参加できるイベントの増加」が140件(40.6%)「近隣の施設（公民館など）で参加できるイベントの増加」が127件(36.8%)でした。

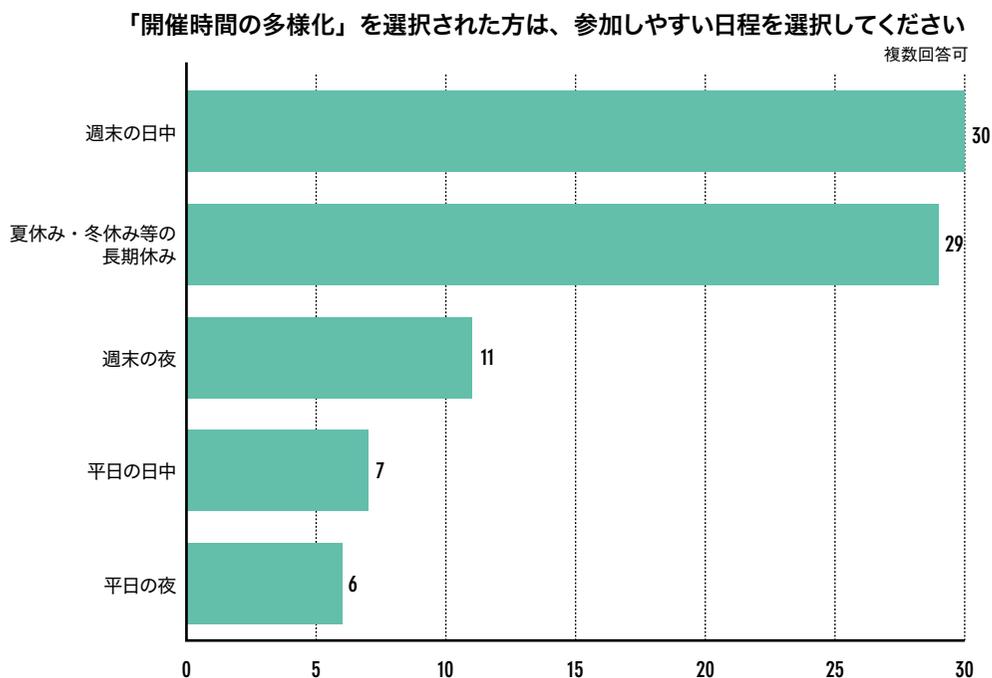
「どのようなこと（支援など）があれば、子どもはより多くのことが体験できると思いますか」



体験をさせてあげられない理由で最も多かったのが「金銭的理由」だったことから、「安価に参加できるイベント」が増えることへの期待が大きいのはうなずけます。次に体験させてあげられない理由で多かったのは「時間的な理由」でした。「子どもだけで参加できるイベント」や「近隣で参加できるイベント」を選択した人にとっては、親子参加で拘束される時間や、送迎に係る時間の負担感は大いなのかもしれません。家庭の負担がかからず、子どもだけで参加できる機会が増えることへの期待も大きいようです。

(2) 参加しやすいのは、週末や長期休暇

前項の「どのようなこと（支援など）があれば、子どもはより多くのことが体験できると思いますか」という問いに対して「開催時間の多様化」を選択した111人のうち、49人が次のように参加しやすい日程を回答し、「週末の日中」（30件／61.2%）「夏休み・冬休みなどの長期休み」（29件／59.2%）が多く選択されていました。



「週末の日中」や「夏休み・冬休みなどの長期休み」が約6割となった一方、「週末の夜」や「平日の夜」の答えも一定数あり、ニーズに沿った開催日時の検討が必要であることがわかります。

(3) 体験活動に参加しやすくするために ～ひとり親6名に聞いた参加へのヒント～

アンケート調査を踏まえ、どうしてもっといろいろな体験活動に参加できるようになるかヒアリング調査で聞かせていただきました。

「連休は持て余してしまう」

金銭的・時間的にできることが限られるため、連休は「やること探し」をすることもしんどく、持て余すという声が沢山ありました。また通常の土日の場合、土曜日は仕事の疲れが出ており、日曜日は次の日からの仕事への影響を考えて億劫になってしまいがちであるため、「連休の中日が一番参加しやすい」という声が多くあがりました。

【個別ヒアリングより】

- (イベント開催日は)できれば土曜、ベストは連休と思います。次の日が学校、と思うと子どもの体調を考えてしまうことや、連休にやることもあまりないので。体験の機会をたくさんもっているわけではなく、思い出づくりの機会が少ないため“天気で左右されないもの”がよいな、と思います。(12歳、8歳の子どもの保護者)

「翌日に疲れが残らない時間、車がなくてもいける場所」

車を所有していない家庭も多く、「自転車の範囲内、公共交通機関でいきやすい場所」などがあがりました。また、翌日以降の仕事の関係や普段の疲れもあり、半日企画のものは移動も含めると丸1日使うため、参加することがしんどいという声があがりました。

【個別ヒアリングより】

- 市がやっているイベント情報を楽しみで見ているが、行けたことがないです。どのイベントも基本的に1日びっしりという感じなので、資格の勉強や翌日の仕事のことを考えるとちょっとしんどいです。お昼間の2時間だけとか、短時間のものがあれば気軽に参加できると思います。もしくは三連休の中日だと初日と最終日休めるので、参加しやすいです。また、車の免許がないので移動範囲も狭まってしまいます。公園も近場しか行けないし、バスを利用していくのも大変だと感じます。免許はとりたいですが、そのための時間がないですし、免許センターに託児がないのもネックです。(5歳の子どもの保護者)

「ひとり親家庭のみのイベントは参加しやすいが、レッテルを貼られることへの不安も」

「パパの存在をどう子どもに伝えるか悩みながら過ごすなかで、他の家族連れを子どもがどのように見ているかが気になる」

「シングルのおうちの友達がおらず、同じ境遇の人とつながりたい。またアドバイスなども聞きたい」

といったひとり親特有の希望から、「ひとり親家庭に限定したイベントだと参加しやすい」という声もありました。

一方で「あそこに参加しているのはひとり親家庭だ」とレッテルを貼られて見られることへの不安の声もありました。

- ・外からはわからないようにしてほしい
- ・ひとり親家庭は”周りからわからないように”無償や低価格だと参加しやすいなどがあげられています。

【個別ヒアリングより】

- キャンプやBBQなどの野外活動もしたいのですが、母子2人ではなかなか難しいと感じています。友達家族とやろうと思えばできるのかもしれないのですが、子どもが他の家族の父親をどう捉えているかが気になっています。そういう意味では「自分だけでは実現が難しい」イベントに関しては、ひとり親だけのイベントなどがあると参加しやすく、周りにひとり親がいないので、親同士の交流ができると嬉しいと思います。また、1人で家計と子育てを担っていると習いごとの送迎は難しいと感じており、今後の不安事項です。体力的にも精神的にも余力がないので、余力がないという意味では情報収集もそんなにできていないと思います。(3歳の子どもの保護者)
- 参加者がひとり親だけであれば、少し気が楽かなと思います。子どもは発達障害のこともありあまり父親の存在自体を気にしていないのですが、親の自分としてはまわりが両親そろったファミリーばかりだと、虚しく感じることもあります。(12歳、8歳の子どもの保護者)
- 母子会などの存在は今(ヒアリング時)まで知らなかった。イベント自体は行ってみたいし、そういうところでひとり親家庭のつながりを作りたい。(5歳の子どもの保護者)
- 体験に関して、ひとり親向けの情報をいただけるのはありがたいです。ただ、目に見える形でひとり親イベントとくらわれるのはあまりよくないかもしれません。ひとり親という言葉を気にされる人もいますね。(25歳、23歳、8歳の子どもの保護者)
- 野外体験を求めて市が主催するひとり親家庭のイベントにいったことがあり、楽しいと感じたのですが、他のシングルのママ友にきいたところ、周りから見た、ひとり親への反応が気になり、敷居が高いと感じていました。同じひとり親であってもハードルに感じる場所は違うと思うのですが、周りからはわからないように無料、割引枠とかがあっても違うと思います。(6歳、4歳の子どもの保護者)

ヒアリングでは多くの家庭から、子どもが「家族の形」をどのように意識しているのかということや、子どもが成長過程の中で他の家族の形を知った時どのように伝えていくべきかということを悩んでいる声が聞かれました。このような不安から「同じ境遇の家庭と一緒にの方が楽」という気持ちがある一方、「ひとり親だと気づかれたくない」という複雑な気持ちを抱えていることがわかりました。

【思い出の記録がほしい】

「家族で写真を撮りたい(いつも自分が撮る役なので自分が入った写真がない)」「記録を撮ることができない(家族での写真撮影ができない)」という声がありました。ひとり親家庭の場合、親子で出かけてもカメラマンになってくれる人がいないため、子どものみの写真が残る、というものです。

【自由記述より】

- キャラクターや着ぐるみと一緒に写真を撮りたい時に子どもはいつも1人で映るのが不満のようです。写真を撮ってくれる人がいないので子ども1人ばかりの写真が多くママは?とよく聞かれます。(3歳の子どもの保護者)

- 未婚のシングルマザーで私の実家も遠方の県なので、参観日や各行事でお父さんと一緒にとか祖父母と一緒にというものを毎回欠席するもしくは寂しそうにまわりのご家族を見ていた事があったり、父兄との競技等は私と参加する為、撮影する事が不可能です。(8歳の子どもの保護者)

その他にあがった具体的な声

【個別ヒアリングより】

●体験の場が増えることで選択の幅もひろがる

子どもがいろんなことに興味をもちはじめましたが、月謝や送迎を考えると複数の習いごとは難しいと感じています。でも、本人の興味や合う合わないがわからないので、いろんな無料体験や本人の興味関心を引き出す場があれば嬉しいです。(6歳、4歳の子どもの保護者)

●小学生になると参加できる無料プログラムが減った

商店街が好きで子どもを連れてよく歩いてました。未就学児向けの無料体験も多くてよく参加していました。小学生向けは少ないので、そこからは遠出するようになりました。色んな人と触れ合えるイベントは印象に残っています。とてもいい思い出になりました。(25歳、23歳、8歳の子どもの保護者)

こうした具体的な意見をお聞きすると、私たちが提供する体験活動に活かせるヒントが沢山見えてきました。望んでいることや必要だと感じていることは様々です。すべてに応えることはできなくても、一つ一つ、ひとりひとりに対応できる機会を増やすことで、ひとり親家庭の参加の可能性を上げることができると考えます。

(4) 体験活動の機会を広げるために ～企業・NPO 調査から～

家庭への調査とともに、「企業」・「NPO」に対しても調査を行いました。

家庭へのアンケート調査の中間結果をお伝えしながら、子どもの貧困対策、ひとり親家庭の体験活動の支援をご一緒にできることを見つけるための調査です。

企業調査では、岡山県内の子育てに関心のある企業（主に「おかやま子育て応援宣言企業」などに登録している企業等）や、家庭向けのアンケート調査を基とし、家庭のニーズが考えられる業種から選定し、アンケート調査を実施し、15社から回答いただきました。

子どもの貧困に対して何らかの取り組みを実施している企業は4社ありました。取り組みたいが未着手の企業は5社、取り組みはしていないが、興味があり検討したい企業は5社でした。あわせて14社が子どもの貧困に対する支援に前向きであることが分かりました。11社からは場所・備品・商品の提供や、講師派遣など具体的な自社資源の提案がありました。

調査の一環として、実際にお話をお伺いするなかで、「支援に活用できそうな自社資源をもっているが、子どもの貧困に対してどのように活用ができるかわからない」「対象家庭へのアプローチ方法がわからない」という声もありました。

NPO 調査では岡山県内の子育てに関心のある団体（主に岡山市の運営する「おかやまNPO・ボランティアサイト つながる協働ひろば」に登録しており、活動分野を「子ども」としている団体等や、家庭向けのアンケート調査を基とし、家庭のニーズが考えられる活動をすすめる団体）にアンケート調査を実施し、11団体から回答がありました。調査では既存の活動やひとり親や貧困家庭の参加の有無等を答えていただきました。

9団体の主催する17の体験活動（事業）について生活困窮家庭やひとり親家庭が参加しやすくなるために配慮している事業は6、配慮していない事業は10ありました。配慮していない事業のなかには、参加費を無料や安価に設定するなど誰もが参加しやすい活動や、元々社会的養護・ひとり親家庭・生活困窮家庭等の子どもが対象であるため、特別な配慮をしていない事業もありました。

団体が家庭への配慮を進めるための課題として「財源の確保」「配慮の方法」「困窮家庭であることの確認方法」などがあげられていました。

今後、子どもの体験不足解消の取り組みに「参加したい」「部分的に参加したい」「興味があり検討したい（詳細資料が欲しい）」「内容次第で検討したい」と答えた団体は6団体になりました。一方、「興味がない」と回答した団体は3団体でした。

本調査を通じて、子どもの貧困に強い関心を持つ企業があることが分かりました。実施上の課題を解決すれば、支援に取り組みそうであるNPOがあることも分かりました。

これらの課題や必要なことを整理し、企業・NPO等と協力しながら、困難を抱える家庭が体験に参加できる場を増やせるよう取り組んでいきたいと思ひます。

(回答の詳細については資料(27～30ページ)をご参照ください。)

おわりに ～子どものために大人が手を取り合う社会へ～

生活困窮家庭の親の多くが、子どもの望んでいる体験を諦めさせる辛さを抱えています。親自身もそんな自分を責め、罪悪感を感じていることもわかりました。

この「子どもの諦めの経験」は子どもの自己肯定感を育ちにくくし、「親の罪悪感」は親からも自己肯定感を奪っているのではないかと気付きました。

自己肯定感をしっかり育むことができない環境で育った子どもは、将来、より困難な状況に陥ってしまう可能性が高く、貧困などの困難の連鎖が生まれてしまうと言われてしています。

自由記述や個別インタビューからは、体験不足をうめようと親が努力しても、途中で挫けてしまう様子も伺えました。一方で、体験活動を提供する側が、「小さな工夫」「小さな配慮」を設けることで、参加しやすくなるヒントもたくさん発見できました。

「子どもに体験や支援を届けるためには、その親も含めた取組にすること」。その大切さを広く伝えていく必要性を感じています。

私たちは、今回の調査結果をもとに、令和2年度 岡山市市民協働推進モデル事業に申請しました。ひとり親家庭のみなさんが参加しやすい「体験活動」を広げていくこと、必要な人に情報が届く仕組みづくりを進めたいと考えています。

「資源はあるが、どう活用したらよいかわからない」企業と、「ノウハウはあるが、資源等が不足している」団体、そして「子どもの笑顔のために何かをしたい」個人が手を取り合うことが解決策のひとつになり得るのではと信じています。

この報告を読まれた一人ひとりが、「子どもたちの体験のために自分たちにできること」を見つけたり、ご一緒にできることがありますように。みなさんとの新しい出会いを期待して結びとさせていただきます。



(家庭向け)

子どもの「したい（してほしいだろう）」ことが、
できなかったことがありますか？【単一選択／必須】

	はい	今後そのような不安がある	いいえ
回答数	274	51	20
%	79.4%	14.8%	5.8%

子どものしたいことができなかった経験などを
差し支えない範囲で教えてください。【自由記述／任意】

「はい」「今後そのような不安がある」方の内容は以下のどれにあてはま
りますか。（「いいえ」の方はお手数ですが、「特にない」をご選択ください）【複数選択／必須】

	習いごと (スイミング、ピアノなど)	旅行	野外体験活動 (BBQ、海水浴、 キャンプなど)	お出かけ (動物園、遊園地、映画 館など)	子どもと一緒にごす (絵本の読み 聞かせ、公園に遊びに行くなど)	イベントへの参加	季節行事 (クリスマス、お正月、ひ なまつりなど)	お祝い事 (誕生日、七五三など)	子どもの頑張りやできたことを褒 める	入学園式など	学校の行事 (参観日、運動会、)	その他	特にない
回答数	175	156	149	146	133	98	73	62	54	48	19	18	
%	50.7%	45.2%	43.2%	42.3%	38.6%	28.4%	21.2%	18.0%	15.7%	13.9%	5.5%	5.2%	

子どもがしたいと思っている経験ができなかった (もしくは今後に不安を感じている) 理由があれば教えてください

(「いいえ」の方はお手数ですが、「特にない」をご選択ください)【複数選択/必須】

	金銭的余裕がない	時間的余裕がない	精神的・体力的余裕がない	家族や友人など協力してくる人がいない	人付き合いが苦手	イベント等の情報が得られない	その他	子どもとのコミュニケーションが難しい	不安は特にない
回答数	264	218	135	53	51	18	14	10	10
%	76.5%	63.2%	39.1%	15.4%	14.8%	5.2%	4.1%	2.9%	2.9%

以下のどのようなこと(支援など)があれば、
子どもはより多くのことが体験できると思いますか。【複数選択/必須】

	安価に参加できるイベントの増加	子どもだけで参加できるイベントの増加	近隣の施設(公民館など)で参加できるイベントの増加	有給休暇取得や休みの変更がしやすい環境	イベント情報・支援情報が入手しやすい環境	開催日時の多様化	自宅に訪問(子どもと遊ぶなど)するサービスの充実	家事や育児に関する相談機会の充実	その他
回答数	228	140	127	125	114	111	39	12	10
%	66.1%	40.6%	36.8%	36.2%	33.0%	32.2%	11.3%	3.5%	2.9%

開催日時の多様化を選択された方は参加しやすい日程をご選択ください【複数選択/任意】

	週末の日中	夏休み・冬休み等の長期休み	週末の夜	平日の日中	平日の夜
回答数	30	29	11	7	6
%	61.2%	59.2%	22.4%	14.3%	12.2%

(任意選択だったため、%は回答数(49件)から割り出しています)

子どもはどのような人に認められたり、褒められたりする経験があると嬉しいと思いますか。【複数選択/必須】

	親	学校園の先生	近所や地域の大人	好きなキャラクター・ヒーロー	憧れの職業の人	芸能人	その他
回答数	330	307	168	144	74	41	15
%	95.7%	89.0%	48.7%	41.7%	21.4%	11.9%	4.3%

プレゼントの応募動機などご自由にお書きください。応募動機以外にも、どのようなことでも構いませんので、普段から感じられている苦勞や不便なことなど教えてください。【自由記述/任意】

※「プレゼント応募動機」とはサンタクロスからのプレゼントを指す

(企業向け)**(1) SDGs や CSR に対する取り組みをしていますか？**【選択式】

	している	取り組みたいが未着手	していない	合計
回答数	11	3	1	15
割合	73.3%	20.0%	6.7%	100.0%

(2) 「子どもの貧困」に関する取り組みをしていますか？【選択式】

	している	取り組みたいが未着手	していない	合計
回答数	4	5	6	15
割合	26.7%	33.3%	40.0%	100.0%

(3) (1) (2) で「している」と回答された取り組みはどのような取り組みですか。【自由記述】**(羅列)**

教育、ジェンダー、エネルギー、つくるつかう責任／県内の学童施設に通う小学生を対象に生活環境の保全や健康づくりについての知識の習得を目的とした出前講座を実施（手洗いの方法、食育、禁煙啓発、運動等）／途上国の工場における児童を含めた強制労働の禁止

(4) 現在、「こどもの貧困」の解決のために協働していただける企業を募集しています。協働して取り組んでいただける企業の皆様については、ホームページで紹介するなどを検討しています。【選択式】

	参加したい	興味があり検討したい	興味がない	未回答	合計
回答数	3	8	3	1	15
割合	20.0%	53.3%	20.0%	6.7%	100.0%

(5) 生活困窮家庭の体験活動支援のために、貴社の強みを活かした支援について関心がありますか。次の支援について、貴社の強みを活かして、できそうなこと、あるいは検討したいことがありますか。

【選択式】

	場所や備品の貸出	商品の提供	体験機会の提供	社内キャラクターの機会提供	講師派遣	ボランティアでの参加	移動のお手伝い	寄付活動や普及啓発	その他	合計
回答数 (複数選択あり)	4	3	1	1	3	3	0	3	1	19
割合	21.1%	15.8%	5.3%	5.3%	15.8%	15.8%	0.0%	15.8%	5.3%	100.0%

その他の回答 (職業体験、こども食堂)

(NPO向け)

●現在実施している体験活動等子どもに対して行っている活動内容について教えてください。(回答いただいた11団体のうち、体験活動を実施している9団体が回答) 分野【選択式】

	文化活動	スポーツ	野外活動	社会体験	生活体験	その他	未回答	合計 (事業数)
回答数	4	0	3	2	3	5	0	17
割合	23.5%	0.0%	17.6%	11.8%	17.6%	29.4%	100.0%	100.0%

●生活困窮家庭やひとり親家庭等の参加について教えてください。困窮家庭等の参加はありますか【選択式】

	有	無	不明	未回答	合計(事業数)
回答数	4	4	7	0	17
割合	35.3%	23.5%	41.2%	0.0%	100.0%

●参加しやすくするための配慮をされていたら教えてください。【選択式】

	配慮している	配慮はしていない	未回答	合計(事業数)
回答数	6	10	1	17
割合	35.3%	58.8%	5.9%	100.0%

●配慮を実施する上での課題や問題がありますか。あるいは特に配慮をしていない理由を教えてください。【自由記述】

(羅列)

イベント(開催場所等)のマナー/財源の確保だけ他の困難はありません/同居親の費用負担が厳しい/参加費をかなり安く設定しているから。/参加費は無料だから/開催場所(決まった場所)/ニーズが不明/意識をしていなかった。ただ、会費無料のイベントも多い。/参加費500円。安いと考えています。/特になし(時々昼食をつくり材料代をいただくことはあるが、お金がないから食べられないという子には、出世払いでいいからと食べてもOK)

● 今後の配慮の可能性について教えてください。【選択式】

	現状の配慮を継続	検討する	特に配慮はしない	未回答	合計（事業数）
回答数	6	3	4	4	17
割合	35.3%	17.6%	23.5%	23.5%	100.0%

● 実施上の課題、困難な理由等 【自由記述】

（羅列）

財源、スタッフの確保、財源の確保・参加者が固定している。／他団体の交流で仲間づくりの経験の場とする。／どんな配慮の方法があるのか具体的に分かれば検討しやすい。／一般公開されている有料企画での会費の減免は、困窮家庭である証明が難しそうである。

● （上記の特別な配慮以外で）団体での「子どもの貧困」に関する取り組みの状況について教えてください。（11 団体が回答）【選択式】

	している	していないが、既存の事業を工夫することで、支援につなげる余地がある	していない	未回答	合計（団体数）
回答数	4	2	3	2	11
割合	36.4%	18.2%	27.3%	18.2%	100.0%

● 来年度、岡山市市民協働推進モデル事業として、ひとり親家庭、生活困窮世帯の子どもの体験不足を解決するため、対象家庭への情報提供や団体間での情報交換、参加しやすいイベントづくりなどを進めるため、ご協力いただける団体を募集しています。ご参加いただけますか。

（11 団体が回答）【選択式】

	参加したい	部分的に参加したい	興味があり検討したい	内容次第で検討したい	興味がない	未回答	合計（団体数）
回答数	1	1	3	1	3	2	11
割合	9.1%	9.1%	27.3%	9.1%	27.3%	18.2%	100.0%

体験にみる子どもの貧困
—345世帯の声からみえたこと
～ひとり親家庭での体験活動を支えるために～

2020年2月29日発行
平成31年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業
編集・発行 NPO法人チャリティーサンタ
事業協働課 岡山市こども福祉課

ホームページ：<https://www.charity-santa.com/>
お問い合わせ：info@charity-santa.com

この冊子は、『ドコモ市民活動団体助成事業』からの助成金により作成しました。

